

## 第63回ITER機構職員募集説明会でのQ&A

### 1. 日時・場所

平成25年4月19日(金)

東海会館（原子力学会北関東支部 若手研究発表会）

### 2. 来訪者：5名

### 3. 説明概要：

原子力学会北関東支部 若手研究発表会ポスター発表会場において、来訪者に核融合、ITERなどに関する資料を配布し、ITER計画について説明するとともに、ITER機構職員募集および登録の案内を行った。

(ITER計画管理グループ 杉本、齋藤)

### 4. 主なQ&A

Q:ITERは何の略称ですか？

A:もともと、International Thermonuclear Experimental Reactor(国際熱核融合実験炉)の略でしたが、近年直接ITERあるいはイーターと呼称しています。なおITERには、ラテン語で「道」という意味があります。

Q:日本からITER 機構へは何人派遣されていますか？

A:ITER 機構の職員総数は2013年2月末現在で452人です。専門職員が294名、支援職員が158です。日本からは27名の研究者・技術者が専門職員としてITERの建設活動に従事しています。支援職員は6名です。日本国籍の方の割合は、専門職員が9.2%程度となっています。より多くの日本人がITER機構で働けるよう支援を行っております。

Q:ITERはいつ完成するのですか？

A:2020年に最初のプラズマを点火することを目指して、装置建設が進んでいます。その後、重水素を使った運転を経て、2027年にトリチウムを用いた運転が開始される予定です。

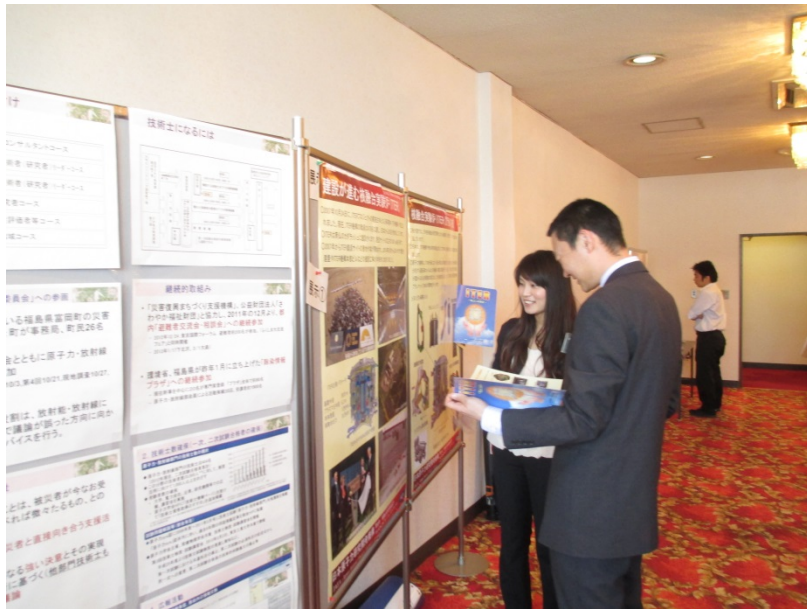
Q:日本の機器の分担について教えてください。

A:日本が分担する調達機器は、多岐にわたります。中心ソレノイド、トロイダル磁場コイル、トリチウムプラント設備、ブランケット遠隔保守機器、ダイバータ、高周波加熱装置、中性粒子加熱装置、計測装置などです。

Q:ITERの重さはどれくらいですか？

A:全体の重さは18000トンにもなります。そのうち、超伝導コイルが半分近く(約10000トン)を占めています。

以上



原子力学会北関東支部 若手研究発表会ポスター発表会場の様子